

# TSUNAGU

～学びの先の夢に向かって～

東大阪市教育委員会 小中一貫教育推進室



## トピックス

小中一貫教育推進室だより「TSUNAGU」では、子どもたちの様子や教職員の実践をもとに、市内における小中一貫教育をはじめとした連続・一貫した教育活動の状況を共有していきます。

## 朝日小学生新聞「がっこう新時代」コーナーに掲載

全国紙である朝日小学生新聞に「9年間の一貫教育にトライ」の見出しで、東大阪小中一貫教育について掲載されました。

義務教育学校の紹介をはじめ、小中一貫教育のねらい、中でも、夢TRY科について、わかりやすく丁寧に紹介されました。

7月中旬に池島学園で実践された夢TRY科の授業（ステージBの「自然現象のメカニズム」）の様子が取り上げられました。

「夢TRY科は、答えが一つでないことをみんなで話し合えるから楽しい」という児童の感想や、夢TRY科がさまざまなテーマを奥深く学び、生きる力を育む教科であることが紹介されました。

東大阪市の小中一貫教育に関する取組みは、様々なメディアで取り上げられ、注目を集めるものとなっています。特に、夢TRY科に関しては、新学習指導要領で示されている「主体的・対話的で深い学び」を推進する学習でもあることから、その実践の充実や、進化が期待されています。

市教委としても、各学校での夢TRY科の実践を通し

て、子どもたちの「生きる力」が生まれ、その先の人生における豊かな暮らしにつながっていくよう、推進に努めてまいります。



朝日小学生新聞  
2019年（令和元年）8月9日 紙面



## 小中一貫教育コーディネーター（Co）

### 中学校区・市全体における小中一貫教育の推進役

Coは毎月2回の小中一貫教育Co会議に参加し、取組みの方向性を確認しながら各中学校区での実践を進めることで、中学校区、ひいては市全体での小中一貫教育の推進役を担っています。

Co会議では、中学校区登校、定期テストなど実施項目にかかる内容についてなどの協議を行います。その中で、自身の中学校区の成果や課題を確認し、次の方針に生かすことを繰り返しながら、取組み内容を他の中学校区と共に高め合っています。その結果が、市内すべての子どもが連続・一貫した教育活動を受けられることにつながっています。

先日、実施項目の一つである「定期テスト」について、縄手中学校区へ、他市の学校から視察に來られました。Coが中心になり、中学校区で組織的に取り

組むことが、3回の定期テストの作成につながっていることを評価されていました。

縄手中学校区Coの山本 英志さんは、「先日、担当部会で作成した定期テストを実施したところ、子どもたちの緊張した面持ちで臨む姿が見られました。その姿は、教職員が目的を共有し、子どもたちのために協力することで得た成果だと改めて感じました。」と話されていました。

各中学校区での実践においては、それぞれの実態に合わせて共に、市全体の方向性を確認しながら進めていただくよう、お願いします。そのためにも、チーム中学校区の要でもあるCoにぜひとも頼っていただければと思います。



## 地域の一員としてできること～避難所の運営を疑似体験～

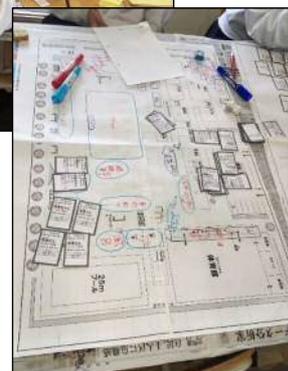
### 防災力は地域力

「防災力は地域力」は、避難所の運営を疑似体験するHUG(ハグ)を題材にした学習です。避難所で起こりうる状況の理解と適切な対応を体験します。

HUGの体験を通じて、防災が自分に関係することで地域の一員としてできることがあることを学んでいきます。中学2年生で学習することが推奨されています。

### 柏田中学校で実践

一学期に、柏田中学校で実践された様子を参観しました。子どもたちは、避難者一人ひとりの状況をしっかり受け止め、その場に合ったよりよい対応ができるようグループで声をかけ合っていました。HUGを体験する前の学習が十分に生かされ、子どもたちが一人ひとりで役割があること、また、その役割を果たすことの重要性を理解することができた学習となっていました。



↑ HUG実践時の様子 (柏田中)  
→ 実践後の敷地図



「防災力は地域力」(夢TRY科テキストP128)

子どもたちは、早ければ数年後に、地域を支えていく世代となります。社会と関わりながら生きていると感じ、自分自身が「災害へのそなえ」として、できることについて考え続けていくことが、地域社会で自分の力を発揮することにつながることを感じる学習です。



### 教育委員会リレートーク

### 第1回目 土屋 教育長

## 「激動の社会を生きぬく子どもたち」

1学期に、学校へ訪問させていただくと、小中一貫教育が本格的に実施されたと実感します。その中で、夢TRY科の授業を見る機会がありました。積み重ねのない教科でもあり、先生方は授業準備等に努力を重ねられていました。

その準備があったからこそ、多くの子どもが自分の考えを活発に表現するなど、生き生きと活動することにつながっていると感じました。

子どもたちには、とにかくじっくり考え、自分ごととし

て考えを深めてほしい。考えた結果、例えば「災害へのそなえ」の単元を通して、1本のペットボトルを家に保管することになればいい。地元を今より、もう少し愛するようになればいい。その中で、力を蓄え、将来の激動の社会を生き抜いてほしい。そういう思いが込み上げます。

昨年度までは、小中一貫教育に関する取組みは、それぞれが独立した点のような存在だったかもしれませんが、今後、夢TRY科を通じて、点と点

が線として小中一貫教育の取組みがつながり、地域や保護者の皆様と共に、多面的に子どもを支える役割を担っていくことを期待してなりません。

東大阪小中一貫教育を通して、子どもたちを支える連続・一貫した学びがさらに深まり、未来への生きる力を育むことに結びつくことを願っています。

土屋 宅 土